

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

資料2

基本方針	1	市民協働の担い手の育成・活用	担当課	市民協働課
基本施策	(1)	市民活動への参加のきっかけづくり		
事業No	1	イベント等を活用した市民活動に関するPRの実施		
P	事業内容	多くの市民が集まるイベントなどを活用し、市民活動に関するPRをすることで、市民の理解を深め、市民活動への参加のきっかけづくりを行います。		
	コロナ禍における取組	広報や市公式ウェブサイト等を利用して、また市民活動を報道機関に情報提供し取り上げてもらうことにより、市民活動のPRをし、市民活動についての関心を促していきます。		
D		事業の実績	広報あじょうに協働事例を掲載し、市民協働と参加について紹介しました。また、交流センターが開催したZoomの使い方講座やオンラインでの講座等が、中日新聞、ケーブルテレビのキャッチ、安城ホームニュースにて紹介され、新しい生活様式での市民活動について広く紹介できました。	
C	令和2年度	施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成	
		実績からみえてきた課題	コロナ禍で集まることができず、Zoomやオンラインイベント等にも積極的に参加できない方もおり、市民活動自体が停滞気味であることが課題です。	
A		課題解決のために 行う取組 (改善点)	コロナ禍でも実施している市民活動を広報や市公式ウェブサイト等で紹介、また報道機関にも情報提供し、新しい生活様式での市民活動をPRします。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用		担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動への参加のきっかけづくり			
事業 No		2	被災地ボランティア活動に対する支援			
P	事業内容		災害の発生した地域で行う災害支援活動、復興支援活動及び被災地の復興につながる交流活動を支援するため、これらの活動に要する費用の一部を被災地ボランティア活動給付金として支給します。			
	コロナ禍における取組		事業主体である安城市社会福祉協議会と被災地ボランティア活動に対する支援について、現在問題となっていることの共有や支援の在り方について協議を行っていきます。			
D	令和2年度	事業の実績	4月以降のボランティア活動実績はなく、令和元年度末のボランティア活動分（1件 6,200円）を支給しました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			B
		実績からみえてきた課題	事業主体である安城市社会福祉協議会との協議を進めて行く必要があります。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	事業主体である安城市社会福祉協議会と引き続き情報の共有や協議を行います。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用		担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	市民活動への参加のきっかけづくり			
事業No		3	ボランティア体験プログラムの開催			
P	事業内容		市内の地域福祉活動を知り、ボランティアを始める機会を提供するために、ボランティア体験プログラムを開催します。			
	コロナ禍における取組		市内学校の夏休み期間の短縮、施設等でのボランティアの受入が難しいことから、ボランティア体験プログラムとしては中止とし、ボランティアを希望する人からの相談について個別で対応や調整をします。			
D	令和2年度	事業の実績	個別の相談に応じるため、ボランティアを受け入れている施設との情報共有に努めました。担当が地域支援ネットワーク会議に参加し、福祉施設の現状について担当者との情報共有を図りました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			B
		実績から みえてきた課題	感染リスク回避のためにほとんどの施設が受け入れを中止している一方で、ボランティアの重要性を再認識しています。コロナ禍での福祉施設ボランティア機会を確保するため、柔軟な対応をできる事が必要です。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	感染症の状況や福祉施設の受け入れ状況は日々変化しており、常に最新の情報を把握する必要があります。福祉施設のボランティア受入担当者を対象にした会議を実施する等、施設担当者との情報共有を積極的に行います。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用	担当課	市民協働課
基本施策		(2)	市民協働のまちづくりの担い手の育成		
事業 No		1	市民活動入門講座の開催		
P	事業内容		市内で活動する市民活動団体の活動内容を紹介したり、活動を実際に体験する講座を開催します。		
	コロナ禍における取組		コロナ禍での市民活動についての講演会やオンラインでの座談会などを開催します。		
D	令和2年度	事業の実績	市民活動に関心のある方やすでに活動している団体を対象とした「わくわくサロン」を交流センターにて5回開催しました。「わくわくサロン」では、Zoomによる座談会や、講師を招いて「withコロナの市民活動」講演会などをオンラインで開催しました。参加者は延べ47名でした。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	会場とオンラインとどちらも開催を希望する声があります。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	会場での開催とオンラインでの開催を併用して実施していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用		担当課	生涯学習課
基本施策		(2)	市民協働のまちづくりの担い手の育成			
事業 No		2	シルバーカレッジの開催			
P	事業内容		熟年世代を対象としたシルバーカレッジを開催します。また、講座修了者がボランティア活動や地域活動などの多様な活動へ主体的に参加できるよう支援します。			
	コロナ禍における取組		令和2年度のシルバーカレッジは中止し、代替として、在学生・修了者向けに年3回開催予定だったレベルアップ講座を、年6回に増やし実施していきます。			
D	令和2年度	事業の実績	シルバーカレッジレベルアップ講座を年6回開催しました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績から みえてきた課題	レベルアップ講座を年6回実施し、知識の習得にはつながりましたが、シルバーカレッジ1年生、2年生の連続講座を中止したため、受講者同士の仲間づくりや仲間同士からなるボランティア活動などへの主体的参加につながりませんでした。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	対象者が高齢者であるため、ボランティア活動や地域活動などの多様な活動への参加が現在難しい状態です。 感染症対策を実施しながら、講座を実施することにより、仲間づくりや活動への主体的参加の動機付けにつなげていきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用		担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	市民協働のまちづくりの担い手の育成			
事業 No		3	ボランティア養成講座の開催			
P	事業内容		ボランティア入門講座や手話講座など、福祉に関するボランティア活動を行う人材を養成する講座を開催します。			
	コロナ禍における取組		手話、傾聴、点訳講座を募集人数を減らして実施します。講師が遠方である場合や、開催時期の感染が多いと予想される場合は、状況に応じてオンラインでの講義も検討します。			
D	令和2年度	事業の実績	新たにボランティア活動を検討している人向けの講座（手話、傾聴、点訳、災害ボランティアコーディネーター）を実施しました。また、コロナ禍でのボランティア活動の継続を支援するため、現在活動している人向けにWeb会議ツールの使い方講座「Zoomを使えるようになろう！」を実施しました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった（コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	現在活動している人向けにWeb会議ツールの使い方講座を実施しましたが、今回参加をしていない活動者からも需要の声が上がっているため、周知を強化する必要があります。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	対面での活動が困難な状況に備え、既存の活動者向けにIT技術の学習機会の提供を継続します。実施の際は、現在の登録者を中心に周知を徹底します。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用		担当課	市民協働課
基本施策		(3)	市民協働サポーターの育成・活用			
事業 No		1	市民協働サポーター養成講座の開催			
P	事業内容		市や市民活動センターとともに市民協働を推進する市民協働サポーターを養成する講座を開催します。			
	コロナ禍における取組		時代にあったリーダーの養成をしていくため、世界規模で取り組まれているSDGsを知り、SDGsの視点での活動展開や活動の啓発・サポートができる市民を養成していきます。			
D	令和2年度	事業の実績	持続可能なまちづくりを考える講座「私たちの”まち”×SDGs（安城版）～多文化共生のまちプロジェクトを作ろう～」を3回開催し、カードゲームによる協働のまちづくりを体験しました。参加者は延べ90名でした。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績から みえてきた課題	社会活動や協働によるまちづくりへの理解を深め、次期市民協働推進計画の策定に携わる人材が必要となります。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	講座のなかで、市民協働推進計画に関心をもってもらえるようにしていきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用		担当課	市民協働課
基本施策		(3)	市民協働サポーターの育成・活用			
事業 No		2	市民協働サポーターの実践の場の提供			
P	事業内容		市民協働サポーターが、研修を通じて得た能力を発揮し、実践する機会を提供します。			
	コロナ禍における取組		引き続き、市民協働サポータークラブ及び市民交流センターと取り組んでいきます。			
D	令和2年度	事業の実績	市民活動補助金成果報告会にて、市民協働サポーターにファシリテーターとして活躍していただきました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	実践機会が少ないのが課題です。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	実践機会を増やすため、市民協働サポータークラブ及び市民交流センターと検討していきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用		担当課	市民協働課
基本施策		(4)	市職員の意識改革の推進			
事業 No		1	職員の市民活動への自主的・主体的参加の推進			
P	事業内容		職員向けに、市民活動に関する情報を定期的・継続的に提供し、自主的・主体的参加を促します。			
	コロナ禍における取組		発信する情報に関心をもってもらえるよう工夫します。			
D	令和2年度	事業の実績	交流センターが発行する情報誌「ぼらりん」や講座の案内を、写真や色文字などを利用して、庁内掲示板に掲載しました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	掲示板に掲載した内容のほとんどが、交流センターの情報でした。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	市民活動補助対象事業など、他の市民活動に関しても情報提供していきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		1	市民協働の担い手の育成・活用		担当課	市民協働課
基本施策		(4)	市職員の意識改革の推進			
事業 No		2	職員向け市民協働研修の実施			
P	事業内容		協働のまちづくりを進める上で、市職員に必要とされる考え方や姿勢などを学ぶ研修会を開催します。			
	コロナ禍における取組		市民協働の具体的な事例をより盛り込んだ研修にしていきます。			
D	令和2年度	事業の実績	町内会長連絡協議会会長の加藤氏を講師に招き、「町内会の概要と榎前町内会の事例紹介」と題して、町内会と市、社協等との協働について、研修会を開催しました。係長級以下の職員52名が参加しました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	町内会だけではなく、NPO（ボランティア団体、市民活動団体、特定非営利活動法人等）との協働についても学ぶ必要があります。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	愛知県の協働ルールブックなどを活用した研修会の開催を検討します。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実		担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実			
事業No		1	ふれあい補償制度の運用			
P	事業内容		地域における活動及び市民活動に対して、怪我や賠償責任を補償する制度を運用します。			
	コロナ禍における取組		引き続き、各町内会ほか市民に向け、制度について分かりやすい説明で周知していきます。			
D	令和2年度	事業の実績	支払件数：23件 支払金額：594,408円			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	ふれあい補償制度を知らない市民活動団体の方がいました。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	市民交流センター等にポスターを掲示するなど周知していきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業 No		2	市民活動センターの活性化		
P	事業内容		利用者の声を市民活動センターの運営に反映し、市民活動団体の利用を促進します。		
	コロナ禍における取組		引き続き、利用者の声やアンケート調査を実施し、センターの運営に反映していきます。		
D	令和2年度	事業の実績	利用者サービスの向上に向けた声は、接遇面より資材機材の充実の声が多くあり、順次、補修や購入で対応しました。また、コロナ対策として、消毒・手洗い・マスクの着用を促し、マスクの作り方の動画を終日放映するなど、新しい生活様式の定着に努めました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	登録団体に対して行った活動調査においては、回収率47%の内の半数以上がコロナ禍での今後の活動を不安視しています。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	引き続き、オンラインやリモート環境を利用した講座や指導を行い、利用者の声やアンケート調査結果からみえてくる必要とされる支援を充実させ、利用を促進していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業 No		3	支援拠点施設同士の連携強化		
P	事業内容		市民活動の支援拠点施設同士が、市民活動に関する情報を共有し、それぞれの活動に役立てるために連携を図るとともに、団体の活動拠点施設とも、情報共有などを通じて連携していきます。		
	コロナ禍における取組		引き続き、情報共有し、ボランティア活動の支援の充実を図るため、会議を開催していきます。		
D	令和2年度	事業の実績	まちづくり推進事業として、社会福祉協議会ボランティアセンター、青少年の家ボランティア活動センター、生涯学習ボランティアセンター、市民活動センター担当者会議をオンラインで2回開催し、情報共有しました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	若い世代に継続的に活動してもらうにはどうしたらよいかという課題を共有しました。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	学生向けボランティア講座など、それぞれ持っている情報を共有していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業 No		4	市民活動センター・生涯学習ボランティアセンターにおける相談・コーディネート機能の充実		
P	事業内容		市民活動センター及び生涯学習ボランティアセンターのスタッフや職員が行う相談・コーディネート業務に関する機能を充実させます。機能の充実にあたっては、スタッフや職員の資質向上だけでなく、中間支援活動を行う市民活動団体と連携していきます。		
	コロナ禍における取組		引き続き、相談・マッチングのしやすい環境を作り、増進を図ります。		
D	令和2年度	事業の実績	市民活動補助金の申請前には市民活動センターへ団体が相談に行くということをルール化し、補助金本審査時のプレゼンテーションや成果報告会の相談にも繋げました。また、団体に活動調査をし、その後ヒアリングによる活動支援も実施しました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	コロナ禍で、活動休止を余儀なくされて悩んでいる団体があります。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	持続的に相談に乗り、支援していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実		担当課	生涯学習課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実			
事業 No		4	市民活動センター・生涯学習ボランティアセンターにおける相談・コーディネート機能の充実			
P	事業内容		市民活動センター及び生涯学習ボランティアセンターのスタッフや職員が行う相談・コーディネート業務に関する機能を充実させます。機能の充実にあたっては、スタッフや職員の資質向上だけでなく、中間支援活動を行う市民活動団体と連携していきます。			
	コロナ禍における取組		引き続き、人材養成のための講座を実施します。			
D	令和2年度	事業の実績	「SDGsを学ぶージブンゴトとしてとらえるためにー」講座（全4回）を実施しました。また、中間支援組織ボランティア支援担当者会に職員が出席しました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった（コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	講座実施後、参加者有志が「SDGs AICHI EXPO2020」で発表するなどの成果もありましたが、ボランティアセンターの運営には結びつきませんでした。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	引き続き、人材養成のための講座を実施します。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	アンフォーレ課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業 No		5	図書情報館の運営		
P	事業内容		学習機会や交流の場であるとともに、市民活動や地域活動などに関する知識や情報を提供する拠点施設として、図書情報館の運営を行います。		
	コロナ禍における取組		ボランティアグループ実施のおはなし会等は開催せず、図書情報館内のボランティア室での勉強会などを感染症対策を実施しながら開催します。		
D	令和2年度	事業の実績	「広場でおはなし会」など感染防止対策を行ったうえで新たな事業を実施しました。 定例のおはなし会は一部を除き中止、読み聞かせグループに対しての研修や講座・ボランティアグループ代表者会議は開催を延期しました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		B
		実績からみえてきた課題	活動が出来ない中でボランティアグループ会員のモチベーション維持や担い手の育成。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	ボランティア活動をさらに活発にしていくため、ボランティア団体との連携をさらに深めていきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	生涯学習課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業 No		6	地区公民館の運営		
P	事業内容		学習機会や交流の場であるとともに、地域に軸足を置いた地域のまちづくり、ひとづくりの拠点施設として、地区公民館の運営を行います。		
	コロナ禍における取組		計画的に施設整備をしていきます。		
D	令和2年度	事業の実績	施設保全計画に基づき、西部公民館高圧受電設備改修工事、安祥公民館消防設備修繕を行いました。北部公民館の駐車場不足を解消するため、隣接する土地の賃貸借契約を行い、整備工事を行いました。 コロナ禍において、不特定多数の市民が利用する建物内トイレの手洗いをセンサー式にしました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	コロナ禍において、感染防止対策を優先する必要があります。		
A		課題解決のために行う取組（改善点）	施設整備の必要性を十分検討し、整備する時期を見極めていきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実		担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実			
事業 No		7	地域福祉センターの運営			
P	事業内容		地域福祉活動を行う拠点施設として、福祉センターの管理運営を行います。			
	コロナ禍における取組		安全を確保するための利用制限をしつつ、住民の福祉センター利用を促します。また、市が主に高齢者を対象に実施する「新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う外出自粛中の生活に関するアンケート」に協力します。			
D	事業の実績		換気の実施、消毒液の設置など安全確保を図り、福祉センターを運営しました。休館中も相談業務を実施し地域の福祉拠点の役割を果たしました。アンケートは積極的に利用者への呼びかけに協力しました。福祉センターまつりは新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止しましたが、作品展など密にならない代替事業を実施しました。			
C	令和2年度	施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍の中でも取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍の中で取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、部屋の定員制限、利用時間の短縮のほか、福祉センター主催の講座やサロンを中止することはありました。十分な周知期間をとれず利用者等に迷惑をかけたことがありました。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	関係課との連携を強化しできるだけ早い判断をするとともに、館内への貼紙やウェブサイトへの情報掲載を継続し、市民への周知を行います。相談業務は継続して実施していきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実		
事業 No		8	ボランティアセンターにおける相談・コーディネート機能の充実		
P	事業内容		社会福祉協議会ボランティアセンターなどにおいて、ボランティア活動に関する相談を受け付けます。また、ボランティア活動をしたい人と、ボランティアを必要とする人や団体、福祉施設とのコーディネートをします。		
	コロナ禍における取組		職員が県社協が実施するボランティアコーディネーター研修に参加します。また、ボランティア活動者の開拓を目的にしたボランティア募集のチラシを公民館に配架します。		
D	令和2年度	事業の実績	愛知県社協が主催するボランティアコーディネーター養成講座にボランティア担当の職員2名が参加・修了しました。また、地域のボランティア活動者のボランティアセンター登録を促進するため、市内公民館にチラシの配架依頼をしました。さらに、活動者の周知を図るため「芸能ボランティア発表会」を実施しました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	コロナ禍でボランティアの活動機会が減少し、活動者のモチベーションの維持が困難のため、活動機会の開拓や活動者間の交流を支援する必要があります。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	従来の活動場所に限らず、ボランティアの活動場所を柔軟に開拓していく必要があります。地区社協が主催する会議等に出席し、ボランティアニーズの発掘をします。また、活動者間の情報共有の場としてのボランティア連絡協議会への支援を継続していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	市民協働課
基本施策		(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進		
事業 No		1	円卓会議の開催		
P	事業内容		市民活動団体や町内会、企業などが集まり、地域が抱える課題について一緒に話し合い、考え、その後の活動につなげることを目的とした円卓会議を開催します。		
	コロナ禍における取組		お互いが話し合えるオンラインの場を検討していきます。		
D	令和2年度	事業の実績	話し合いの場は設けられませんでした。オンライン団体交流会にて、企業の協賛、学生ボランティアによる動画作成、団体の活動内容の紹介、団体への応援メッセージ募集など、リモート型の交流をはかり、その後の活動につなげられるような交流会を実施しました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		B
		実績からみえてきた課題	町内会と企業への声掛けが困難です。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	社会福祉協議会とも連携できるように検討していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	市民協働課
基本施策		(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進		
事業 No		2	団体同士がつながる交流会の開催		
P	事業内容		市民活動団体や町内会、企業などがそれぞれの活動を理解し、それぞれが顔見知りとなることで、新たな協働を生み出すことを目的とした交流会を開催します。		
	コロナ禍における取組		オンラインによる交流ができるような環境を整備し、団体同士の協働に繋げていきます。		
D	令和2年度	事業の実績	オンライン団体交流会において、市民交流センター特設サイトに掲載した団体紹介動画により、個々の活動を広く知ってもらう機会を設け、視聴者から届いた団体への応援メッセージを団体に還元することで、それぞれの交流をはかりました。また、学生ボランティアが団体の紹介動画を制作することにより、学生と団体との交流ができました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	今回だけではなく、継続的に学生ボランティアとの繋がりが重要です。		
A		課題解決のために行う取組（改善点）	継続的に学生を巻き込んだ団体交流会等を開催し、活動の啓発やきっかけ作りをしていきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	生涯学習課
基本施策		(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進		
事業No		3	市民企画講座の充実		
P	事業内容		現代的な課題の解決に向けて、市民自らが企画・運営する市民企画講座の充実を図ります。		
	コロナ禍における取組		新型コロナウイルス感染症の影響により、上半期の市民企画講座は中止し、下半期は上半期で実施予定だった講座を中心に実施します。		
D	令和2年度	事業の実績	下半期に4講座を実施し、77名の参加がありました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民団体からの応募が減少しています。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	講座実施時の感染症対策（3密対策）を徹底し、講座を実施していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進		
事業 No		4	町内福祉委員会研修会の開催		
P	事業内容		町内福祉委員会の活動を活性化させるために、町内福祉委員会全体研修会などの研修会を開催します。		
	コロナ禍における取組		町内福祉委員会全体研修会を7月から10月に延期し、参加対象者を縮小して、当日の感染症拡大防止対策にも努め開催します。		
D	令和2年度	事業の実績	町内福祉委員会全体研修会を感染症拡大防止対策を講じて10月に実施しました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	全町内会に設置されている全76福祉委員会で活動が行われている現状の中、その年度の地域福祉活動に必要な社会情勢の把握や地域福祉活動を行う上での共通課題、取り組み事例紹介などの情報共有や活動のヒントなどが得られる学びの場を持ち、継続して実施することで活動の活性化を図る必要があります。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	今後も市内全域で継続していけるよう講演会や活動発表の場を提供していくことにより、市民活動者の育成及び活用を図る必要があります。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実		担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進			
事業 No		5	地域福祉活動を推進するための研修会の開催			
P	事業内容		防災・福祉の研修会など、生活に密着した講習会を実施し、個別テーマごとの実践者の育成を行うとともに、他地域の先進的な活動事例などを紹介し、活動のヒントを得られるような研修会を開催します。			
	コロナ禍における取組		コロナ禍における活動制限を考慮し、開催時期や内容、方法について再検討及び再調整しながら、各地区ごとに開催します。			
D	令和2年度	事業の実績	コロナ禍の対応にも配慮しながら、中学校区毎に設置される各地区社協や生活支援コーディネーターにより、各地区の地域性や地域課題に応じたテーマをとりあげて、地域福祉勉強会やネットワーク会議などを開催しました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	コロナ禍により、各町内福祉委員会の活動が中止や大幅に縮小される中であっても、地域の個別課題や共通課題に対応できることを考えていくため、地域のニーズを掴み個別のテーマにあった勉強会などを企画・提供して、町内会福祉委員会活動者の内外に限らず、広く理解者・実践者の育成を図る必要があります。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	地域住民の問題意識やニーズを十分に把握しながら勉強会や会議などを開催していくとともに、参加者に対して今後の担い手としての活動ができるような働きかけを行っていきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実	担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進		
事業No		6	成果報告会の開催		
P	事業内容		自主防災組織の活動や地域見守り活動について、モデル事業を実施した町内会などの活動を市内の他の町内会に波及させるため、実際にどのように取り組んできたのか、そのノウハウや活動の秘訣などを紹介する活動事例発表会を開催します。		
	コロナ禍における取組				
D	令和2年度	事業の実績			
C		施策の進捗度		A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成	
		実績からみえてきた課題			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）		2（2）4「町内福祉委員会研修会の開催」事業及び 2（2）5「地域福祉活動を推進するための研修会の開催」事業の 研修会にて、地域課題解決につながる市民活動促進を充実してきます。	

令和元年度
達成

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		2	活動場所と団体に対する支援の充実		担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域課題解決につながる市民活動の促進			
事業No		7	福祉事業者、関係団体などの交流会の開催			
P	事業内容		様々な主体が実施する活動を活性化するため、町内福祉委員会、ボランティア、NPO、市民活動団体、福祉事業者などが一堂に会する交流会、サロン活動で活かせる情報を得ることが出来る場を設けます。			
	コロナ禍における取組		コロナ禍における活動制限を考慮し、事業所等と検討してきた「共生型サロン」の企画を一旦保留する地区もあり、開催時期や内容について再検討及び再調整しながら、協議や情報交換ができる場の準備を地区ごとに状況をみながら進めます。対象者によるオンライン交流会を取り入れるなどします。			
D	令和2年度	事業の実績	コロナ禍の対応にも配慮し、各中学校区毎にサロン活動者情報交換会や福祉事業所との情報交換などの会議を開催しました。オンラインによる開催を実施した地区もありました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	コロナ禍により、大勢が一堂に会する交流会の開催は困難でした。町内や団体毎の地域活動も中止や縮小が相次ぎ活動ができていない場合があります。その中でも状況をみて対象者や情報提供者を選定し、地域の現状に合わせて情報交換ができる場を企画・提供し、活動の活性化を図っていく必要があります。設備や環境、サポートする人材が整えば、オンラインによる開催も可能でした。			
A		課題解決のために行う取組（改善点）	地域の様々な主体が実施する活動の取組内容や工夫されていることなどを共有して、各自の活動の活性化につなげるため、交流会などの情報交換の場の企画・提供が必要ですが、市域単位と地域単位で開催目的や方法、頻度等を精査し企画をする必要があります。各地域の実情にあった様々な主体が参加する情報交換の場づくりに取り組み、オンラインによる開催もコロナ禍や参加者の状況に応じて検討します。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針	3	財政面と組織面の支援	担当課	健幸＝SDGs課
基本施策	(1)	補助金など財政面に関する支援		
事業No	1	健幸都市の推進		
P	事業内容	安城市第8次総合計画の目指す都市像「幸せつながる健幸都市 安城」を実現するためのプロジェクトを民間から募り、3年後の自立自走を目指したプログラムとなるよう事業の推進補助金の交付と適切な支援を行います。		
	コロナ禍における取組			
D		事業の実績		
C	令和2年度	施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成	令和元年度 達成
		実績から みえてきた課題		
A		課題解決のために 行う取組 (改善点)	地域の社会課題を解決するためにステークホルダーが主体的に協力する取り組みはSDGsの取り組みにも重なることから、公民連携によるSDGsの取り組みを推進しています。	

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	補助金など財政面に関する支援		
事業 No		2	市民活動補助制度の運用		
P	事業内容		「市民協働推進基金」を財源とする「市民活動補助制度」を運用し、地域が抱える諸課題を解決するための市民活動を支援します。		
	コロナ禍における取組		補助制度のPRを実施し、申請しやすい制度になるように見直していきます。		
D	令和2年度	事業の実績	令和2年度補助金交付事業は、市民提案型事業：1件、協働型事業：3件 補助金総額：472,000円 令和3年度からの対象事業として、書類審査のみの市民提案型スタート事業を追加し、行政提示型事業（行政から提示したテーマによる団体との協働事業）を行政協働型事業として、団体からの提案による事業の行政との協働も対象事業として拡充しました。申請件数：18件		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	団体からの提案による行政協働型事業の申請について、決めていた手順通りにならないことや打合せの日程調整が難しいことがありました。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	行政協働型事業の担当課との調整が滞りなくできるように、手順を改め、補助対象事業の募集期間を長くします。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	補助金など財政面に関する支援		
事業No		3	協働事業への支援制度の創設		
P	事業内容		地域の課題を解決する、多様な主体同士の協働事業を公募する「協働事業提案型事業」を、市民活動補助制度の中に新たに創設します。		
	コロナ禍における取組				
D	令和2年度	事業の実績			
C		施策の進捗度		A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成	
		実績からみえてきた課題		3（1）2「市民活動補助制度の運用」事業にて、創設した協働事業への支援制度を継続していきます。	
		課題解決のために 行う取組 （改善点）			

令和元年度
達成

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	補助金など財政面に関する支援		
事業 No		4	市民協働推進基金の運用		
P	事業内容		協働のまちづくりを財政面から支援する「市民協働推進基金」を運用するために市民に向けた啓発活動を行います。		
	コロナ禍における取組		補助金を利用して事業を実施する団体を増やすため、補助金制度を見直していきます。		
D	令和2年度	事業の実績	令和3年度の補助金制度を見直し（3（1）2事業の実績参照）、市民活動センター登録団体に補助金制度変更の案内を送付したところ、申請件数が増加しました。 市民提案型スタート事業：8件、市民提案型事業：4件、行政協働型事業：3件、協働提案型事業：3件 計18件		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	補助金周知期間と募集期間が短いとの指摘がありました。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	補助金制度の周知を通年で行い、募集期間の延長を検討します。また、基金についても同時に周知していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	補助金など財政面に関する支援		
事業 No		5	民間助成制度に関する情報提供の実施		
P	事業内容		民間で行われている助成制度の情報を定期的に収集し、メールマガジン、フェイスブック及び館内掲示などの方法を使って積極的に配信します。		
	コロナ禍における取組		引き続き、助成金等の情報を収集し、団体への情報提供や相談支援等を実施していきます。		
D	令和2年度	事業の実績	市民活動サイト、SNS、館内掲示等で情報提供し、団体の活動内容に合った助成金を紹介するなど、相談支援をしました。また、NPO法人に対しては、コロナ対策である中小企業者等緊急支援金の案内を送付しました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	コロナ禍で活動できないなど、助成金を利用できない状況がありました。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	引き続き、支援金や助成金等の情報を収集し、団体への情報提供や相談支援等を実施していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援		担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	補助金など財政面に関する支援			
事業No		6	地域福祉活動に関する助成制度の運用			
P	事業内容		町内福祉委員会による地域福祉活動を支援するため、助成を行います。			
	コロナ禍における取組		従来どおりのサロン等の開催が困難であるため、新たな活動の具体的な提案について資料を提示するとともに、対象経費や条件を見直して、町内福祉委員会への活動支援を継続します。			
D	令和2年度	事業の実績	市補助金、社会福祉協議会一般会費、共同募金配分金を財源として、各地区社協や市社協で定めた要綱(5事業)に基づき町内福祉活動への活動助成を実施しました。また必要に応じて市補助金(高齢者地域生活支援等実施団体活動支援事業)の利用手続きの案内、支援を行い活用を図りました。コロナ禍により各町内等の地域福祉活動の縮小、中止が多く、コロナ禍に対応した取り組みの提案なども実施し、助成金を活用して活動の充実が図れるよう支援しました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績から みえてきた課題	町内福祉委員会による福祉活動については、多種多様な助成制度があり、条件に応じて資金助成が実施できていますが、利用する福祉委員会にとって手続きが煩雑であり、引き続き随時状況に合わせた支援と改善が必要です。また、コロナ禍による活動の停滞や衰退を防ぐための支援が必要です。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	町内福祉委員会活動への資金助成について、現行の助成事業を継続していきますが、地域課題に応じて実施される地域福祉活動に対して、必要に応じて資金助成事業の新設や改廃を実施します。新たな生活様式に対応した取り組み内容についても継続的に情報提供し、コロナ禍に対応した地域福祉活動を継続できるよう活動助成を活用して支援します。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援		担当課	市民協働課
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援			
事業No		1	スキルアップ講座の開催			
P	事業内容		I C Tスキル、ファシリテーションなどに関する講座を開催し、市民活動団体メンバーのスキルアップを目指します。			
	コロナ禍における取組		オンラインで市民活動ができるようZ o o m使い方講座等を開催します。			
D	令和2年度	事業の実績	交流センターにてZoom使い方講座を随時開催（参加者延べ94名）しました。また、オンライン特有の壁に対するテクニックを学ぶ「オンライン講座の上手な進め方」講座（参加者13名）、リアルタイムでグラフィックレコーディング（イラスト等により視覚的に会議などを記録する手法）の様子を体験してもらう「グラレコを見てみよう！」講座（参加者9名）も開催しました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	新しい生活様式での活動が浸透してきており、次の段階が望まれます。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	持続的、発展的に活動するために必要なことが学べる内容にしていきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援		担当課	市民協働課
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援			
事業 No		2	町内会長向け研修の実施			
P	事業内容		新任町内会長向けに、新たに町内会役員になる場合に必要最低限の知識やノウハウを学ぶ研修を行います。			
	コロナ禍における取組		某町内会の活用事例はホームページの他に町内会長ノートにも組み込み、全町内会長が活用できるようにします。			
D	令和2年度	事業の実績	町内会長ノートに組み込むことができ、全町内会長が活用できるようにしました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績から みえてきた課題	新任町内会長に今後も周知を図る必要があります。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	町内会長ノートをより分かりやすいものにしていきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援		担当課	市民協働課
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援			
事業 No		3	町内会長連絡協議会でのパソコン講座の開催			
P	事業内容		パソコン操作など、町内会の運営に必要な能力の向上を図る講座を開催します。			
	コロナ禍における取組		「町内会の運営に必要な能力の向上を図る」という目的のため、町内会の実情と受講者のレベルの調整を図った講座にしていきます。			
D	令和2年度	事業の実績	講座をレベル分けし、受講者のレベルに合わせた講座を実施しました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績から みえてきた課題	町内会によって必要とするレベルが異なるため、今後も講座をレベル分けすることが必要です。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	町内会の実情と受講者のレベルの調整を図った講座にしていきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援		担当課	市民協働課
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援			
事業No		4	市民活動団体の組織基盤強化のための講座の開催			
P	事業内容		財務処理やNPO法人設立方法など団体の組織基盤を向上させるための講座を開催し、市民活動団体の運営能力を高める支援を行います。			
	コロナ禍における取組		新しい生活様式での市民活動を支援できる内容にしていきます。			
D	令和2年度	事業の実績	「withコロナの市民活動」として、NPO法人高齢者支援よりそいの会の伊藤氏を講師に招き、コロナ禍で活動をしている実体験から持続可能な活動をするための資金・配慮・社会資源についてなど講演会を開催しました。参加者は18名でした。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	コロナ禍では活動自体が難しく、活動を継続していくための支援が必要です。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	資金となる補助金の活用や活動を継続発展させるための起業についての講座開催を検討します。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		3	財政面と組織面の支援		担当課	市民協働課
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援			
事業No		5	市民活動団体の自立を促すための制度の研究			
P	事業内容		市民活動団体が、自立して活動を継続するための、「伴走支援」や「プロボノ」、「ファンドレイジングによる資金調達」などの新たな支援策を研究します。			
	コロナ禍における取組		引き続き、情報提供や相談などの支援を継続し、その他の支援策について交流センターと取り組んでいきます。			
D	令和2年度	事業の実績	交流センターでは、団体への情報提供・相談・本審査や成果報告会用の動画作成の補助といった伴走支援を通常業務として行いました。ミニファンドレイジングとして、オンライン団体交流会において、企業や個人からの協賛金を団体への応援メッセージの数に応じて団体への分配しました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	市民活動団体がファンドレイジングなどの手法を学ぶ機会が必要です。			
A		課題解決のために行う取組（改善点）	資金に関する講座やミニファンドレイジングイベント等を開催していきます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動に関する情報収集・発信		
事業No		1	市民活動に関する情報発信（電子媒体の活用）		
P	事業内容		フェイスブックなどのソーシャルメディアや市民活動情報サイトなどのウェブサイトを活用して市民活動に関する情報を発信します。		
	コロナ禍における取組		引き続き、交流センターのホームページやSNSを周知し、インターネットによる情報提供を継続していきます。		
D	令和2年度	事業の実績	市民活動サイト、インスタグラム、フェイスブック、LINEによる情報発信を行いました。また、団体交流会を特設サイトでオンラインにて開催しました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	SNS等の操作の苦手な人がいます。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	SNS等の操作について、使い方講座を開催するなど支援していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動に関する情報収集・発信		
事業 No		2	町内会への加入促進に関する啓発		
P	事業内容		町内会への加入を呼びかけるチラシの配布などを通じて、町内会への加入を促進する啓発を行います。		
	コロナ禍における取組		引き続き、宅建協会と町内会の加入を促進するための協議を重ね、加入を促進するチラシの作成と協定の締結を視野に進めていきます。		
D	令和 2 年 度	事業の実績	宅建協会と町内会、安城市の3者による加入促進に関する協定を締結しました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	町内会活動への理解が薄いため、活動内容を広く周知する必要があります。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	広報紙やウェブサイト等で町内会活動の紹介を行っていきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動に関する情報収集・発信		
事業No		3	マスコミへの情報発信の支援		
P	事業内容		市民活動団体の活動を、団体の依頼に応じて報道機関へ情報提供します。		
	コロナ禍における取組		報道機関への情報提供を交流センターと実施してきます。		
D	令和2年度	事業の実績	報道機関へ情報提供し、交流センター開催のZ o o m講座や座談会、避難所受付体験が、安城ホームニュース、ケーブルテレビキャッチで紹介されました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	情報提供しても取り上げられないことが多いです。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	関心を引くような内容で報道機関へ情報提供していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信	担当課	アンフォーレ課
基本施策		(1)	市民活動に関する情報収集・発信		
事業 No		4	大型モニターなどを活用した情報発信の支援		
P	事業内容		アンフォーレ内にある 2 2 0 インチモニターや 5 0 インチタッチパネルで、団体の情報発信を支援します。		
	コロナ禍における取組		イベントの実施自体は減少していますが、イベントを開催する団体へは周知を行います。 また、イベント以外の情報発信ツールとして市広報などでPRを実施します。		
D	令和 2 年 度	事業の実績	イベント情報などの情報が発信できる「市民投稿掲示板」のサービスの提供しました。新型コロナの影響で投稿数は168件となりましたが、様々な市民団体等が投稿や活動をPRする場を提供できました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった（大幅な改善が必要） 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	新型コロナの影響でイベントが中止になっており、投稿数が減っています。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	掲示板の投稿者数が増えるよう、イベント主催者や商店街、企業など様々な人へPRします。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動に関する情報収集・発信		
事業 No		5	市民活動に関する情報発信（紙媒体の活用）		
P	事業内容		「広報あんじょう」などの紙媒体を活用して市民活動に関する情報を発信します。		
	コロナ禍における取組		市民活動に関する情報について、分かりやすく興味を引く内容となるように検討していきます。		
D	令和2年度	事業の実績	広報4月号に補助金交付決定事業全てを掲載し、8月号に市民協働と参加の特集記事を掲載しました。特集記事では、写真やイラストを使用し、協働の事例を分かりやすく紹介しました。また、1月開催の本審査及び3月開催の成果報告会の参加者募集も広報に掲載しました。「暮らしのしおり」には、交流センター施設紹介を掲載しました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	広報の発行が月2回から月1回に減ったため、参加募集の記事掲載のタイミングが難しくなりました。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	チラシに加えポスターも作成、掲示し、募集期間中であることなどがすぐに分かるように情報提供していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信		担当課	生涯学習課
基本施策		(1)	市民活動に関する情報収集・発信			
事業No		5	市民活動に関する情報発信（紙媒体の活用）			
P	事業内容		「広報あんじょう」などの紙媒体を活用して市民活動に関する情報を発信します。			
	コロナ禍における取組		新たにA3両面カラーの簡易版を作成し、広報あんじょう折り込みで全戸配布とし、従来の冊子版は各号2,000部発行に抑え、市内公共施設での配布に切り替えていきます。			
D	令和2年度	事業の実績	生涯学習情報誌「あんてな」を年4回発行しました。（概要版は広報に折り込みし、市内全戸配布。冊子版は市内公共施設で配布）市民企画講座や市民出前講座の情報を定期的に掲載しました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	市内全戸に配布される概要版については、これまでの冊子版と比較すると情報量が限られるため、よりわかりやすい表記が必要となります。			
A		課題解決のために行う取組（改善点）	内容が分かりやすく、興味をもてる講座名を付けるなど、より分かりやすい表記を工夫します。既に利用されているQRコードの表示位置などを工夫し、詳しい内容であるホームページに誘導できるようにします。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信		担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	市民活動に関する情報収集・発信			
事業No		6	ボランティア活動に関する情報発信			
P	事業内容		社協だよりやボランティアセンターウェブサイトなどを活用してボランティア活動に関する情報を発信します。			
	コロナ禍における取組		チラシや社協だより等の紙媒体を通じた情報提供に加え、ウェブサイトを通じて年代問わず情報にアクセスできるようにします。また、ニーズに沿った情報を提供できるよう、ボランティア活動者や活動希望者の意見を積極的に取り入れていきます。			
D	令和2年度	事業の実績	ウェブサイトやメーリングリストを用いた情報発信に加え、LINEのボランティアセンター公式アカウントを作成し、活動者が多様なツールで情報取得ができるように努めました。また、社協だよりでボランティアの特集記事を掲載し、ボランティア活動の周知を行いました。			
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成			A
		実績からみえてきた課題	コロナ禍で活動場所の拠点が自宅に移行する等、活動者とボランティアセンターとの繋がりが希薄化してしまったため、ボランティア活動内容の把握を強化する必要があります。			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	活動内容を情報発信することは、紹介された活動者だけでなく、他のボランティア団体や個人ボランティアのモチベーション維持にも寄与するため、今後も多様な媒体で情報発信に努めます。その際は紹介する活動内容の聞き取りを強化し、内容把握に努めます。			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策		(2)	市民活動に関する理解の促進		
事業No		1	イベントなどを活用した市民活動に関するPRの実施（1－（1）－1 再掲）		
P	事業内容		多くの市民が集まるイベントなどを活用し、市民活動に関するPRをする事で、市民の理解を深め、市民活動への参加のきっかけづくりを行います。		
	コロナ禍における取組				
D	令和2年度	事業の実績	1－（1）－1と同じ		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題			
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）			

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策		(2)	市民活動に関する理解の促進		
事業 No		2	市民活動や多様な主体による協働事例の発表会の開催		
P	事業内容		市民活動や、市民活動団体、町内会、事業者などの多様な主体による協働事例の発表会を公開の場で開催します。		
	コロナ禍における取組		協働団体の役割分担が明確となり、さらにメリット等を示してもらえるように働きかけます。		
D	令和2年度	事業の実績	1月開催の市民活動補助金本審査（オンライン）では、事前に録画した動画により、これまでの協働事業の実績やこれからの協働事業について各団体の役割を踏まえて説明してもらいました。また、3月開催のオンライン成果報告会においても、協働事業について役割分担等を含め発表してもらいました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績からみえてきた課題	動画を作成することや、オンラインによる発表に抵抗を感じる団体がいました。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	動画作成やオンラインでの発表を団体のスキルアップと捉えてもらい、交流センターにて支援していく体制を整えていきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策		(2)	市民活動に関する理解の促進		
事業 No		3	「協働事業事例集」の発行		
P	事業内容		市内の身近な協働事例を整理し発行することで、「協働」を分かりやすく市民に周知します。		
	コロナ禍における取組		協働を分かりやすくまとめ、多くの市民に周知できるよう広報などでも周知していきます。		
D	令和2年度	事業の実績	広報8月号に市民協働と参加の特集記事を掲載し、写真やイラストを使用して協働事例を分かりやすく紹介しました。また、市や交流センター窓口にて、協働事業事例集「コネクト」を配布しました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	さまざまなイベントが中止になってしまったため、事例集を広く配布する機会がありませんでした。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	インターネットや広報等を活用し、協働について周知していきます。		

第2次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート（基本方針1～4）

基本方針		4	情報の収集及び発信	担当課	市民協働課
基本施策		(2)	市民活動に関する理解の促進		
事業 No		4	市民協働に関する啓発		
P	事業内容		市民協働に対する理解を深めてもらうため、地域課題を解決するための協働事例について、その先進事例を紹介するフォーラムや、出前講座などを実施します。		
	コロナ禍における取組		引き続き、SDGs についての講座などを開催し、理解を深め、市民活動にも取り入れられるように取り組んでいきます。		
D	令和2年度	事業の実績	「私たちの”まち”×SDGs（安城版）～多文化共生のまちプロジェクトを作ろう～」を開催し、新しい分野のSDGs について学び、カードゲームによる協働のまちづくりを体験しました。また、オンライン団体交流会では、学生ボランティアによる団体PR動画制作という先進的な活動を行いました。		
C		施策の進捗度	A：事業は実施でき、前年度の課題が解決できた（コロナ禍における取組が実施できた） B：事業は実施できたが、前年度の課題が解決できなかった （コロナ禍における取組は実施できなかったが、別の取組を実施した） C：実施できなかった・大幅な改善が必要 達成： 施策自体の達成		A
		実績から みえてきた課題	引き続きSDGs の理解を広げること、また、学生ボランティアとの継続的な繋がりが重要です。		
A		課題解決のために 行う取組 （改善点）	SDGs に関する講座の開催を検討し、学生ボランティアとの繋がりも維持していきます。		